

## 邯鄲

松岡隆子

森の日のきらきら冷えて新松子  
水底の藻草さみどり秋はじめ  
一葉して細波すでに昏るるいろ  
母の手のやや冷たくて夕花野  
跼まれば母もかがみて草の花  
天上の花こそ白き曼殊沙華  
万葉の風の吹きくる藤袴

夕花野引き返さねばと思へども  
振り返るとき木犀の風にはか  
木犀の香にをり遠き町にをり  
片付けてふいに夜寒の机辺なる  
これよりは邯鄲とゐる時間かな

先日近隣の牧野記念庭園を訪ねた。西武池袋線大泉学園駅から徒歩5分の閑静な住宅街の一角にある庭園は、NHKの朝の連続テレビ小説「らんまん」で一躍脚光を浴び、ドラマ終了後も来園者は後を絶たないという。園内には博士に縁の深いスエコザサ、ヘラの木、サクラ「仙台屋」など300種類以上の植物が生育しており散策に事欠かない。圧巻は書屋の本の量である。博士の書斎を再現した書屋には約3200冊（高知県「牧野文庫」には4万5000冊）の蔵書が所狭しと収められている。蔵書に埋もれて研究に没頭する博士の在りし日の姿が思われ、日本の植物分類学の基礎を築いた業績が偲ばれた。